

2019年度総務省実証事業

「放送と通信を連携したローカルコンテンツの配信及び災害情報の提供の在り方」

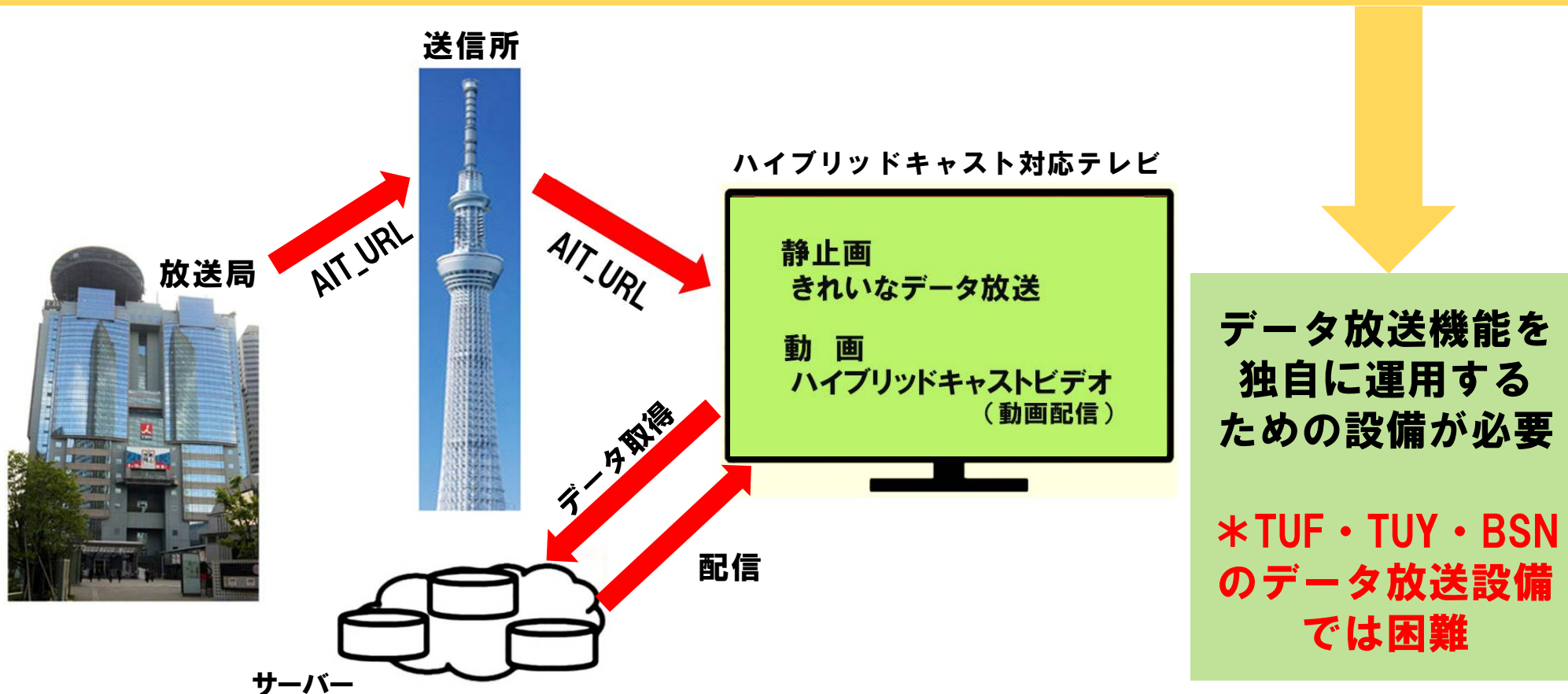
共通配信基盤を用いた 複数ローカル局による災害情報配信の検証

提案代表者 テレビユー山形

連携事業者 テレビユー福島 新潟放送 TBSテレビ IIJ ACCESS TBSグロウディア

ハイブリッドキャスト

放送と通信を連携させたサービスで、インターネットに接続されたテレビから放送に関連するさまざまな情報が取得できる



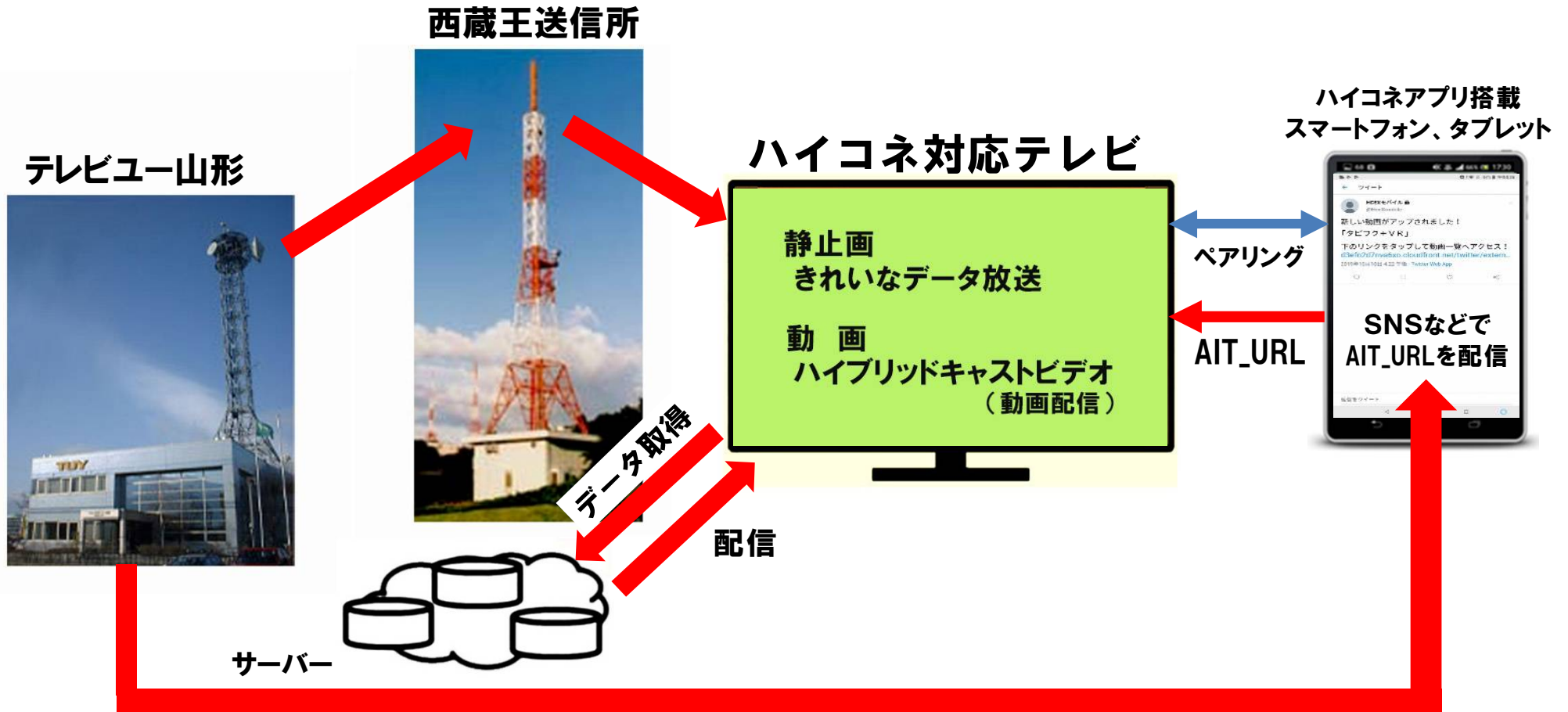
AIT (Application Information Table) : インターネットコンテンツを取得するための情報

ハイブリッドキャストは、ネット動画への誘導に有用

2013年にサービスを開始し、現在対応テレビの出荷台数は累計1,100万台以上

ハイコネ

ハイコネ=Hybridcast Connect の略 IPTVフォーラムの登録商標



ハイコネ=スマホに実装したアプリから、データ放送機能を用いない環境で直接ハイブリッドキャストを起動することができる(テレビリモコンも使わない)

ハイブリッドキャスト

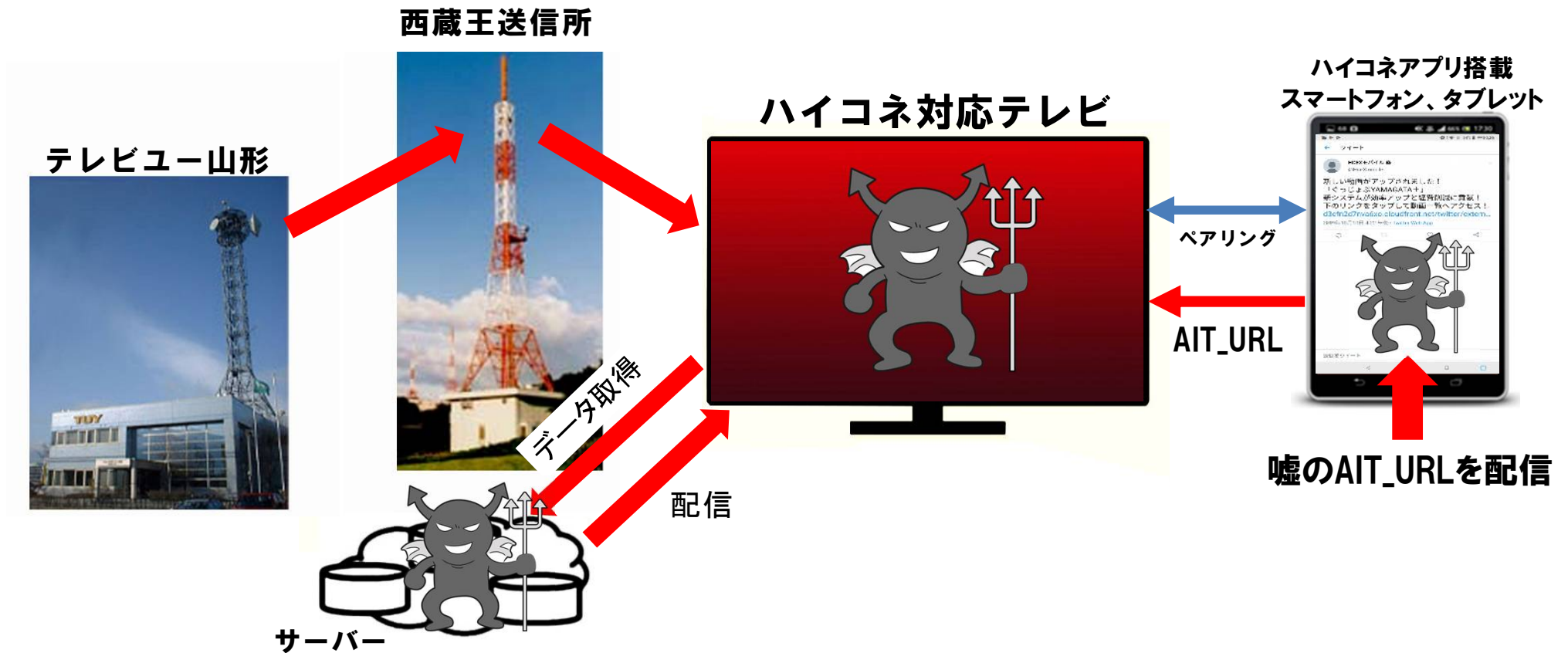
ハイブリッドキャストのAIT_URLは
紛れもなく放送局から送出されたもの



AIT (Application Information Table) : インターネットコンテンツを取得するための情報

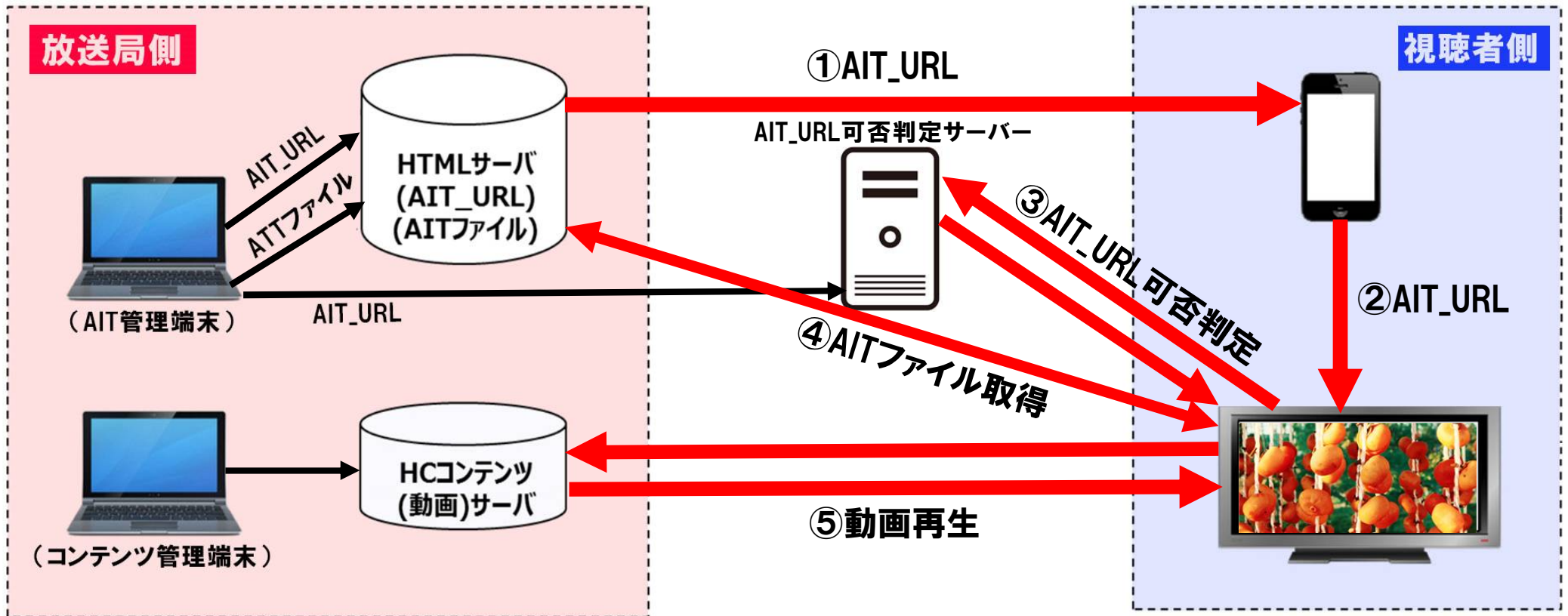
ハイブリッドキャストは、ネット動画への誘導に有用

ハイコネ

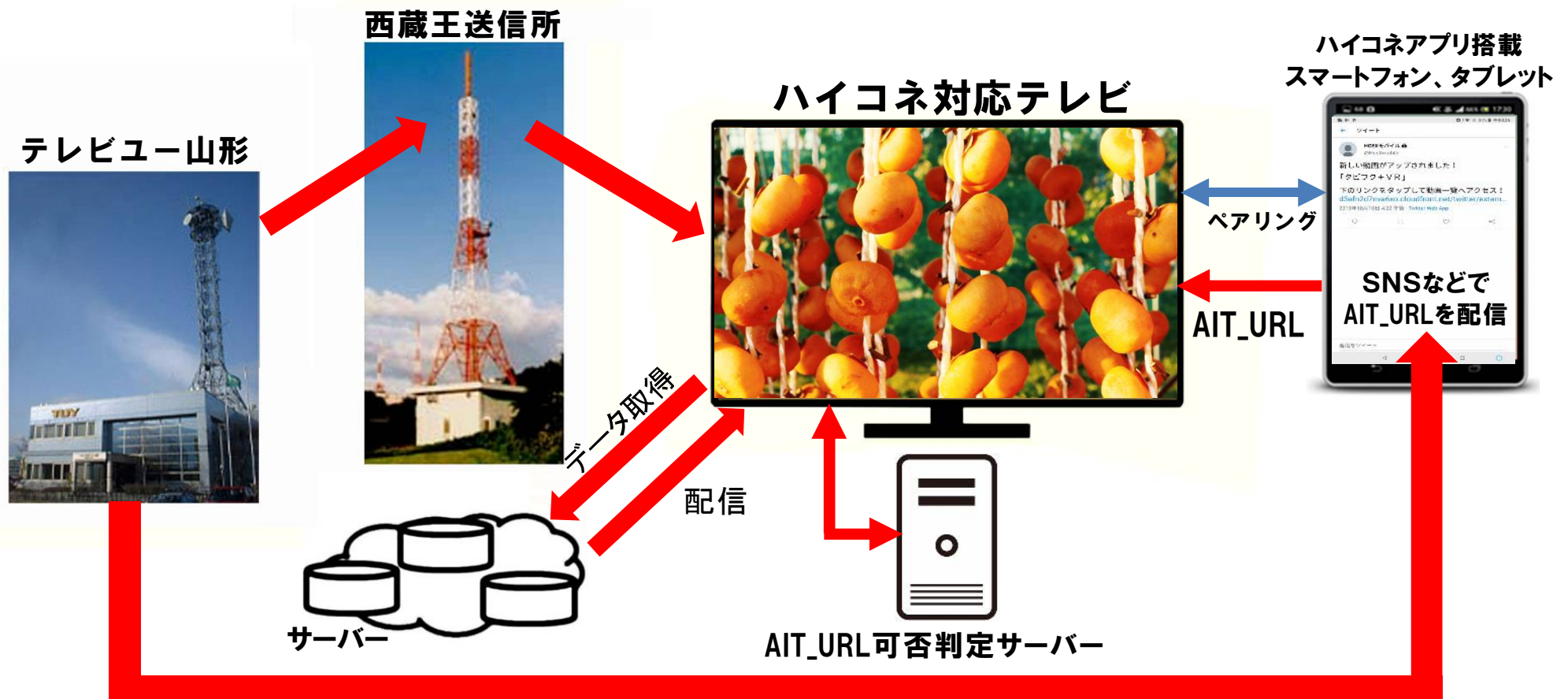


悪意をもった人が嘘のAIT_URLを送り付け画面を乗っ取る可能性

AIT_URLの正当性を確認するプロセス



ハイコネ



AIT_URLを送出するための特別な放送設備は必要ない

提案の背景

台風等の災害の及ぶ地域は、河川の上流域と下流域などでは災害発生にタイムラグもあり、隣接県の災害情報を共有することができれば、災害を最小限にすることもできる可能性がある。これらの仮説を背景に本実証実験を山形、新潟、福島で実施することを提案した。

ローカル地域が現在抱える課題

1	災害対応へのニーズ	ローカル局(地域)では、年々大規模化する災害に関して、ローカル局のサービスエリアだけでは、 大規模災害放送に対応できなくなっている。
2	災害時の情報取得の多様化	最近の災害情報はテレビだけではなく、 スマホ向け配信等、デバイスの多様化が進んでいる。 一方では、ネットによるフェイクニュースも課題となっている。
3	複数放送局による共通配信基盤へのニーズ	従来の放送局が管轄するサービスエリアに加えて隣接局のエリアも含む安全安心な ローカルコンテンツによる災害情報共有の必要性 が認識されている。

課題解決のための仮説

複数局が参加する共通配信基盤を構築することで、通常時は安全安心なローカルコンテンツの活発な視聴を前提に、災害時には従来のサービスエリアを超えた災害情報の提供により住民に速やかな情報提供を行う。

実証実験のポイント

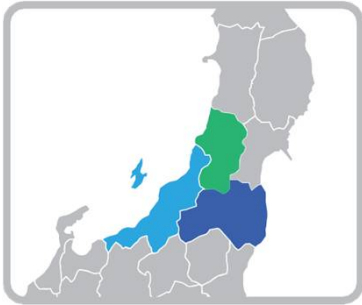
- ① **ハイコネ**でテレビのリモコンを使わず
スマートフォンでテレビを操作
- ② 配信動画を見ている時も災害時には自動的に
オンエアや**他の動画**に遷移する
- ③ 山形県で起こった災害の様子を隣県である
福島・新潟でもライブ配信で見ることができる

(株) テレビユー山形 (TUY) 実証実験

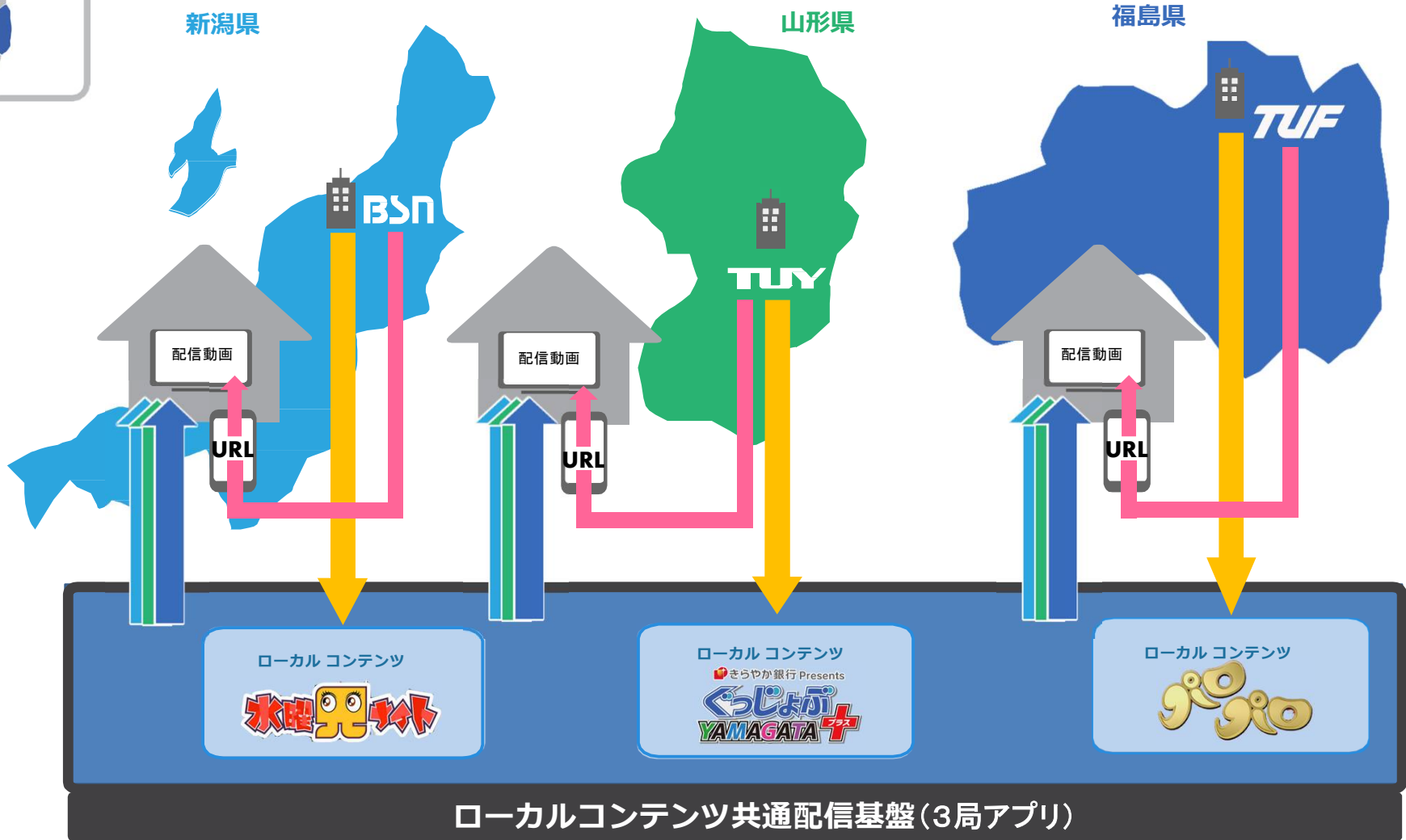
共通配信基盤を用いた

複数ローカル局による災害情報配信の検証

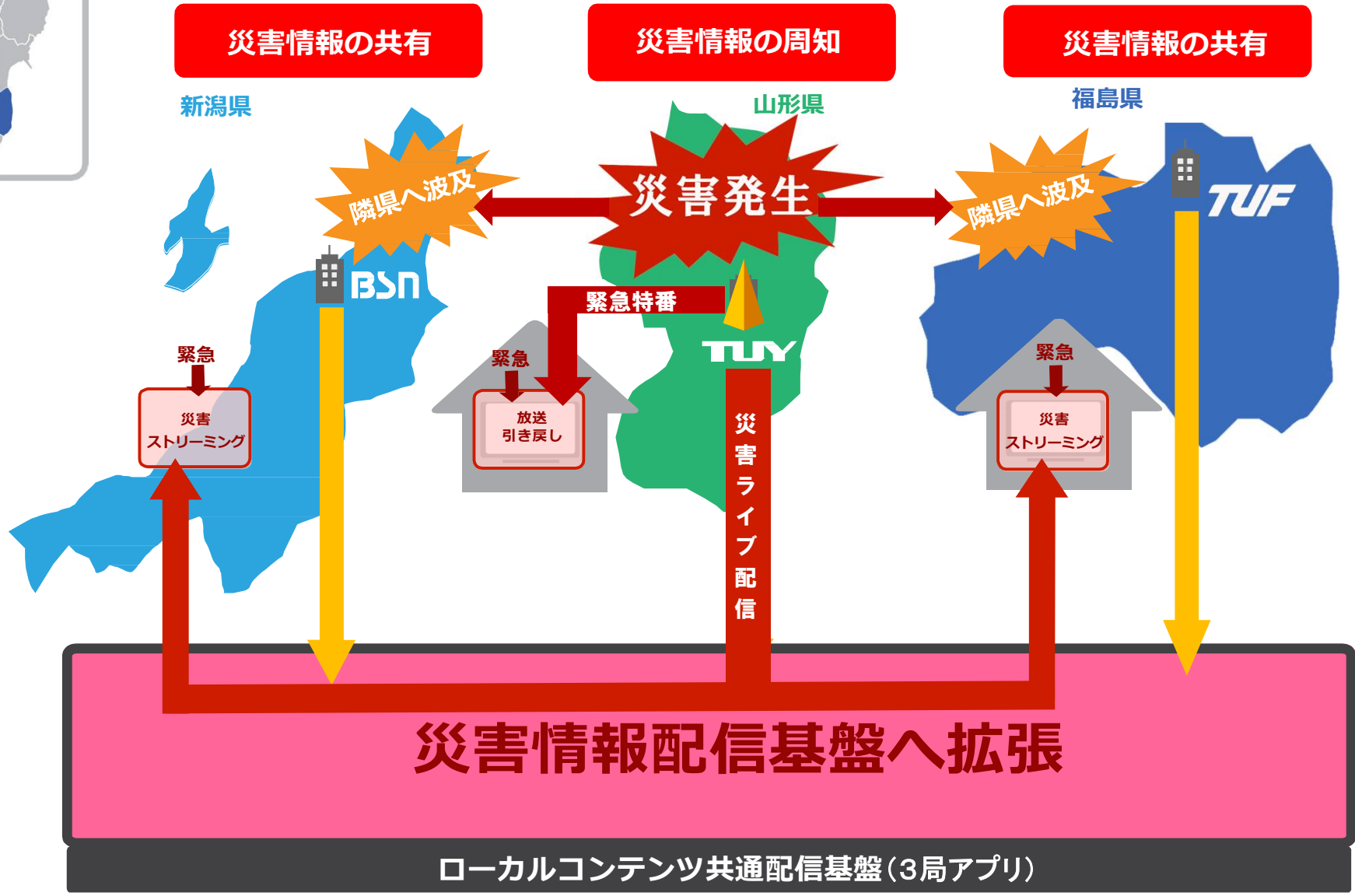
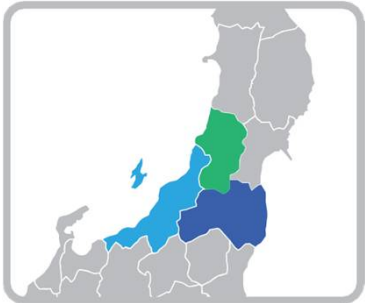
共通配信基盤を用いた複数ローカル局による災害情報配信



普段使いのメディア



共通配信基盤を用いた複数ローカル局による災害情報配信



共通配信基盤を用いた複数ローカル局による災害情報配信

課題

今回提案したサービスモデルの実現には課題も多い

【ハイコネについて】

- ・ハイコネ対応テレビの普及やハイコネ自体の認知向上が必須
ハイコネ対応テレビは**現在1社のみ**。複数のメーカーからハイコネ対応のテレビが発売され「4Kチューナー内蔵のテレビを買ったらハイコネに対応していた」という状況が理想。ケーブルテレビのSTBにハイコネ対応を始めているものがある。
- ・放送局側もハイコネを使ったより魅力的なコンテンツを提案する必要がある。そのためにはローカル局でも簡単にハイコネアプリを作れるような仕組みが必要

【共通配信基盤について】

- ・ビジネスモデルの構築が最重要
今回のような3局規模ではコンテンツ数や地元スポンサー数が限定的で**スケールメリットが出ない**のでは
- ・配信基盤を系列全体で構築する、もしくは視点を変えて系列を超えたエリア内の複数放送局で連携することはできないか

共通配信基盤を用いた複数ローカル局による災害情報配信

まとめ

- *ハイコネはデータ放送を主体的に送出できない
多くのローカル局でもハイブリッドキャストを簡単に実現でき、テレビ視聴者をネット経由のコンテンツに誘導できる
- *ハイコネを用いたスマートデバイスからのテレビ連携は
 - 通常時のVOD視聴への誘導
 - 災害発生時の放送への引き戻し
 - 隣接県への災害ストリーミングによる災害情報提供に有用である。

共通配信基盤を用いた複数ローカル局による災害情報配信

まとめ

これまでハイブリッドキャストは「放送から通信への連携」一辺倒であったがハイコネの仕組みを使うことによって新たに「通信から放送への連携」を加えることになり、ハイブリッドキャストの期待が高まった

ハイコネは「放送と通信の連携」の最後の切札

IPTVフォーラムを通して、放送事業者とメーカーとが協力してハイコネの推進に努めて行くべきである